

# 居場所づくり懇談会（概要）

## <開催趣旨文より>

今日、居場所づくりが地域で広がっています。その目的も、孤立化防止、支え合いや触れ合いの拠点として、または、空き家対策、起業（ソーシャルビジネスやコミュニティビジネス）としてなど多様です。また、推進団体や実施団体もNPO、大学、社会福祉法人、行政など様々です。

本会ではこれまでも区市町村社会福祉協議会やボランティア・市民活動センターへの支援や連携を通じ、都内の地域福祉活動を推進するとともに、東京ボランティア・市民活動センターとして、こうした「場」の重要性に着目し、『協働空間』というコンセプトとして提起しながら、活動にとりくむボランティアグループやNPOなど市民活動団体同士の情報交換と交流の機会づくり、見学会やブックレットの作成などに取り組んできました。

懇談会では、都内で居場所づくりに係る団体様にお集まりいただき、改めて居場所の必要性やあり方を確認するとともに、実践内容や活動の課題などを共有させていただきたいと考えています。

- 1 日 時 平成 25 年 7 月 3 日（水） 15 時～17 時
- 2 会 場 飯田橋セントラルプラザ 1 2 階 会議室 A



## 【報告者】

- (1) 社会福祉法人荒川区社会福祉協議会  
地域ネットワーク課 地域コーディネーター 稲葉隆裕 さん
- (2) 一般財団法人世田谷トラストまちづくり 課長 浅海義治さん
- (3) NPO 法人くにたち富士見台人間環境キーステーション 理事 佐々木将文さん
- (4) NPO 法人れんげ舎 代表理事/まちだNPO法人連合会 会長 長田英史さん

※次項より、団体ごと質疑部分も含め、報告の主な部分を抜き出して整理してあります。

## 社会福祉法人 荒川区社会福祉協議会

- ✦ 所在地 〒116-0003 荒川区南千住 1-13-20
- ✦ 電話番号 03-3802-2794
- ✦ URL <http://www.arakawa-shakyo.or.jp/>



平成 15 年度頃より、地域福祉活動計画に基づき、地域のサロン活動の推進を展開。現在、48 のサロンがあり、60/119 の町会・自治会が実施に関わっている。地域住民、福祉関係機関(者)等も含めた「地域懇談会」を開催しサロンの立ち上げを「地域コーディネーター」が支援している。

- 再開発など住み方・暮らし方の変化、町会等役員の高齢化、若者が町会に加入しないなど近所づき合いや人間関係の希薄化が進んでいる。
- 地域のキーパーソンを中心にサロンの意義や楽しさ等を伝えながら「サロンを立ち上げたい」という自主的な声があがるのを待ち、「自分たちのサロン」という意識を持ってもらえるようにしている。
- 地域懇談会として町会・自治会、民生委員児童委員、高年者クラブ、高齢者みまもりステーション、地域包括支援センター、社協等が集まり、「ふれあい絆・活サロン立ち上げ懇談会」を開催する。
- 社協の地域コーディネーターが連絡調整役となっている。
- 居場所づくりは、「住民同士の顔の見える関係をつくる」ということとともに、「地域のネットワークづくりの拠点」になるという側面がある。拠点が関係づくりやニーズ把握、課題解決につながることを狙っている。
- いろんな地域にいろんなサロンがあると住民が選択できる。
- 地域のサロンというイメージを持ってほしいので、公共施設ではなく、なるべく町会会館など使っている。お客さんではなく、場を作っている一員、地域の一員という形で集まってほしい。
- なるべく地域とのつながりを持っている方々（例えば、町会婦人部、地元詳しい方等）に声をかけして、担い手になってもらっている。
- お茶菓子や会場費等の運営経費は歳末たすけあい募金から支出されている。地域住民から集められたお金が、社会福祉協議会を通じて地域に還元され、地元の福祉活動に役立てられているということが見えるため、住民の理解が得やすく、そのことでより積極的なご寄付をいただけるようになってきている。
- 高齢者に「ご相談ください」と言って待っていてもなかなか言ってくれないが、お茶を飲みながらの雑談から課題状況を把握して関係機関につなげたり、サロンの運営を担っている地域住民との信頼関係を築く中であがってきた相談に応じている。
- 区内全域にサロンが少なかった時は、居場所を求める高齢者が遠方から参加することも多く「どなたでも」受け入れていたが、区内半数以上の町会・自治会で運営に関わるなど、サロンの数も増えたため、「ぜひ地元のサロンへ」という言い方ができるようになってきた。そのため、より身近な地域での顔と顔の見える関係づくりができる基盤が整いつつある。
- 会員制の団体とは異なり、サロンは地域の方どなたでもどうぞという形でないと広がっていかない。
- 地域の暮らし方に応じて人の集い方はそれぞれあると思う。
- 社協の内部とか行政も含めて横の連携をとり、色々なサービス等を有機的につなげていくことが必要。



顔と顔がつながり 困ったときに支え合える  
ふれあい絆・活サロン

[http://www.arakawa-shakyo.or.jp/service/hureai\\_ikiiki\\_salon.html](http://www.arakawa-shakyo.or.jp/service/hureai_ikiiki_salon.html)

## 一般財団法人世田谷トラストまちづくり

- ✚ 所在地 〒155-0031 世田谷区北沢 2-8-18  
北沢タウンホール7階
- ✚ 電話番号 地域共生のいえ担当 03-6407-3313
- ✚ URL <http://www.setagayatm.or.jp/>



平成 17 年度頃から、オーナー自らの意思により、まちづくりの場として自宅を開放する「地域共生のいえ」づくりを推進。現在、13 箇所あり、NPO、専門家による開設支援を行っている。

平成 25 年度より、世田谷区の「空き家等地域貢献活用相談窓口」の運営も担当する。

- 「地域共生のいえ」は**人的資源**と**空間資源**（空き家等）を掛け合わせて地域を再生していこうという発想。
- 「地域共生のいえ」は、**オーナー自身が自ら取り組む**という考え方を基本としている。
- 世田谷トラストまちづくりの役割は、**オーナーと地域活動やNPO、専門家をつなぐ**（橋渡しをする）こと。地主さんから、**中間支援組織**（世田谷トラストまちづくり）が間に入ることによってやりやすかったとの声を聞いたこともある。
- 「地域共生のいえ」の空間タイプは、①**空き家**（3 件）、②**空き部屋**（3 件）、③**居間等**（5 件）※時間的な住み開き、④**建て替え**（2 件）※新しい場の創造 の 4 つ。
- 財団では、開設や運営に向けた**ソフト面からの支援**を中心に行っている。直接金銭的な支援はない。
- ①**構想支援**（オーナーと一緒に部屋等の活かし方を検討、必要に応じ専門家等を紹介・派遣）、②**試行支援**（活用案を試行し、運営方法や課題を検討）、③**開設支援**（開設イベントの実施、憲章・プレートを設置）を経て、「地域共生のいえ」ができる。毎年 10 件くらいの相談はあるが、年に 1~2 件くらいのペースで実現している。
- オーナーにとっての意味は、①**したかったことの自己実現**、②**社会につながり役立つ充足感**、③**新しい仲間との出会い**、④**身近なところにいる見守りの目**の 4 つがある。
- 開設後の支援として、①各いえの情報や活動課題を話し合う**オーナーズプラス会議**の開催や、②運営サポーター等を発掘する**地域共生のいえ訪問ツアー**や**トラストまちづくり大学**などがある。
- オーナーズプラス会議では、取り組みへの社会的認知を広げることや、運営経費（例 固定資産税の補填等）などの課題が挙がっている。地域共生のいえが地域でこれだけの効果（行政の代替え機能）をもたらしている、だからこれだけ補助できるという公的支援の仕組みがあるとよい。
- 地域共生のいえ（小さな**コモンズ**）には、暮らしの記憶を映す空間（**脱機能的**）、ホストが存在する利用形態（**非匿名的**）、付き合う作法が必須（**要コミュニケーション**）という公共施設にない特徴があり、そのことが共生の住み方・暮らし方の提起（**共助の再構築**）につながる。
- 協働事業を人と人という中で発想していくことが多いと思うが、地図を見ながら地域の社会資源を拾い上げてつないでいくような戦略があってよいと思う。



地域共生のいえ  
活動拠点紹介

<http://www.setagayatm.or.jp/trust/map/ie/index.html>

## NPO法人くにたち富士見台人間環境キーステーション

- ✚ 所在地 〒186-0003 国立市富士見台 1-7-1  
富士見台団地 1 号棟 1 階
- ✚ 電話番号 042-573-3444
- ✚ URL <http://human-environment.com/kf/>



団体にある商店街の空き店舗を利用して、カフェや地元野菜の販売、多目的ホールなどを展開しているNPO法人。

一橋大学（学生等）、市民、商店街、国立市の産官学民が連携しているところに特色があり、平成 14 年度に法人化。

- 富士見台団地住民の高齢化、よそに移っていく人の増加により、空き店舗が増加した。
- NPO法人くにたち富士見台人間環境キーステーションでは、「ここたの」(コミュニティカフェ)、「とれたの」(野菜、特産物の販売)、「ゆーから」(雑貨店)、「まちかどホール」の貸し出し等を実施。
- 月 1 回「ここたのナイト」という自分の特技を披露する場を設け、交流会として好評。普段の営業が大切ということが根底にあって、普段立ち寄ってくれた方と会話を繰り返して途中でイベントへの流れが自然とできることが重要だと思う。
- 「まちかどホール」で大学の先生がゼミを公開。他の事業と比べて幅広い世代が集まりやすい。
- 近くの 3 商店街と協同して、やほレンジャーや情報誌の発行を通じ、商店街の活性化にも取り組んでいる。
- 担い手の中心は大学生で大学サークル P r o - k を組織し、市民の方にも協力してもらっている。
- 運営資金は基本的には事業による自主財源が中心。立ち上げ期は市から 1 / 3、都から 1 / 3、商店街から 1 / 3 の支援をいただいた。
- 大学生が 4 年で卒業してしまうため、古くからの固定概念にとらわれることなく、いろいろと活動できる点が大きなメリット。地域に溶け込むため、引継ぎもしっかりするようにしている。
- 一橋大学は経営に係る学部が中心のため、学生が大学で学んだことを地域で実践するというモチベーションになっている。
- NPO の理事に行政や商店街の人も参加してもらい、お互い理解を深め連携をしている。
- 誰にとっての場なのか意識して活動をしていきたいと思っている。地域に方にとってどうなのかというところに常に立ち返って活動したい。
- バラバラに点在していることを結びつけることが場づくりの前提。よく言われる「よそ者・若者・バカモノ」が地域に入ることによって他者とつながり、地域の潜在能力を引き出すなど、相乗効果を持って一緒に何かを生み出すことが必要だとあらためて考えさせられた。



ここたの  
(コミュニティカフェ)

<http://human-environment.com/104/>

## NPO 法人れんげ舎

- 📍 所在地 〒194-0044 町田市成瀬 1-2-7
- 📞 電話番号 042-726-0206
- 🌐 URL <http://www.rengesha.com/>



子どもに関する活動とともに、コミュニティカフェを運営し、瓶詰めプリンも好評。

また、自治体やNPOの依頼に応じ、講座やワークショップなど「場づくり支援」の講座の開催も積極的に行っている。

団体は平成8年設立、法人化は平成14年。

- NPO法人れんげ舎では、①場づくり支援（講座やワークショップの開催）、②金魚玉珈琲の運営（コミュニティカフェ）、③子どもたちのために場をつくる事業を実施している。
- 学生の頃に子ども会に参加したのがもともとのきっかけ。大学生は4年間でぬけていくため、今後の方向性を話し合い、学生ボランティアの枠を超えて活動を継続する形を選んだ（れんげ舎の立ち上げ）。
- 学校でも塾でもない子どもの居場所をつくることを価値においていたが、親は、利用の対価＝サービスの提供ととらえるようになったため、活動は実費程度に変更。賛助会員制で広く浅く支えてもらい、**財源確保と地域の人たちとの接点を目的に「金魚玉珈琲」という喫茶店をオープンした。**
- いくつかのNPO法人がやっている喫茶店を見に行った結果、仲間内の経営になりがちだと感じたため、NPOという特性をアピールせず、「普通」の喫茶店を目指した。
- コミュニティカフェのスタッフは、**専従のスタッフ、中間のスタッフ、フルタイムのボランティア**が混在している。お金を受け取っている、いないということで責任の違いはない。
- 場づくりの講師のお手伝いを通じて感じることは、コミュニティカフェや場づくりというテーマで参加してくる人たちは、テーマや課題にすぐ反応する市民活動やNPO活動にかかわっている人と異なり、「**何か地域のためにしたいという希望を持っている**」人が多いということ。
- 場づくりで運営がうまくいかないとか悪い場（例えば、メンバー一部の人だけで行われていて、ミッションを見失った活動）が続くと、活動が破たんしてしまう。良い場で出会うなど、市民活動なりの場の運営を考える必要がある。
- 地域課題の解決が目的の場合でも、「問題があるから集まってください」という集め方でなくて、最初はもう少しポジティブなテーマで集まれる場をつくろうと、行政には提案している。
- 「場」は人のつながりがつくり出すもの。「場所」がどこであれ、「場」は工夫次第で作れる。
- 誰のための場なのかということが一番基本的なことだと思う。主催者がどのように意思決定して、自分たちの考えをいかに更新していけるか、話し合いをしていけるかが大切である。
- 地域の課題を解決するためには、住民個々が持っている専門性ではなく、**地域の人たちが集まって解決をするという特殊な専門性**が必要。話しあいとともに、学びの場にしたり、何かポジティブなテーマに取り組んだり（表向きにはポジティブなテーマに取組み、それが学びの場になっていて）、結果的に課題があまり気にならなくなるという方向で取り組むことができるとよいと思う。



**金魚玉珈琲**  
(コミュニティカフェ)

<http://kingyo.rengesha.com/>